

福祉 5

3241 認知症高齢者の視覚的特徴を配慮した映像表示方法の検討

河本 新, 藤波 努(北陸先端科学技術大学院大学)

6名の認知症高齢者に対して、3秒、6秒、9秒間隔の静止映像を提示し行動を観察した。結果として6秒間隔の静止映像が、動画に比べ視聴中の動作に関する適応行為の評価が有意に向上した事を確認した。これより動画に対し、6秒間隔の静止映像が認知症高齢者に対する映像の表示方法として有効であることが示唆された。

3242 高齢者の情報機器利用初期の学習支援：講習会後の対人的接触の効果に関する実験的検討

有馬 美紀, 原田 悦子(法政大学)

高齢者の情報機器利用学習の支援として、講習会後の講師による電話・メールによる対人的接触の効果を検討した。携帯電話の利用経験がない65歳以上の参加者15名に講習会を行い、一週間の継続利用後にユーザビリティテストを行った結果、継続利用中の社会的接触により主観的評価の向上や利用頻度の増加が得られた。またコンピュータ経験による学習促進の要因の一つとして、社会的支援関係を築く方略的態度の存在が示唆された。

3243 高齢者向け玄関回り住宅部材の研究

横山 精光, 塩田 弘樹(松下電工), 長町 三生(広島国際大学)

超高齢社会になった日本において、高齢者として一括で扱われてきた65才以上の人々について、その1/3以上存在する後期高齢者を研究して住生活への対応を考えることは重要な意味を持つと思われる。住宅の玄関回りの高齢者についての従来研究では主として実験室での実験研究が主体であり、特に後期高齢者については現地の住居での実態調査や現地での実験研究が不足しがちであった。筆者らは、これら後期高齢者を対象にして、玄関回りでの行動に注目し現地調査を主体にした研究を実施した。

3244 情報機器使用時における高齢者の認知・行動特性を考慮した戸惑い状態推定

小竹 元基, 高谷 玲子, 鎌田 実(東京大学), 中山 雄二(NTTドコモ)

本研究では、情報機器使用時における高齢ユーザの認知面でのユーザビリティに注目し、ユーザが操作に戸惑っている状態を検知し、それに応じた支援を行うことができればユーザビリティが向上すると考えた。そこで、ユーザの戸惑いの有無だけでなく、情報機器使用時の行動の特徴から戸惑いの状態を識別する手法の提案を行い、その有効性を検討した。

3245 バス用高防滑性床材の性能評価に関する研究(第4報)

西山 敏樹(慶應義塾大学/地域開発研究所), 江幡 正彦(地域開発研究所)

茂木 俊二, 小林 亨仁, 百貫 正, 稲垣 亜希子(三池工業)

バス車両のユニヴァーサルデザイン推進の一環で、高防滑性床材の開発は重要な側面を担う。我々は石英石を用いた高硬度・高防滑性の床材を新規に開発して、継続的に実地評価調査を行っている。今回雨天時・雪天時のバス利用者に石英石床材の性能評価調査を行った。結果「床材の防滑性」、「履物と床材との相性」、「床材の意匠性」の主要各項目で80%以上の回答者が、雨天時・雪天時の従前の床材に比べて優れていると回答した。従前の非雨天時の利用者評価調査の成果もあわせて、「床材の防滑性」、「履物と床材との親和性」、「床材の意匠性」の主要三項目で新しい石英石製床材の優位性が明らかになった。また、実験に協力したバス事業者も上記の三項目に対する評価が高いことをヒヤリング調査から実証した。この発表では上記の成果について公表する。